

令和4年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業計画書

【基本方針】

令和4年度は、新理事長体制での実質初年度となることから、これまでの21年間の成果を生かすとともに、職員一人一人が前例にとらわれることなく、常に新たな視点で事業を展開するなど、費用対効果を考え創意工夫を凝らした財団運営に取り組み、新型コロナウイルス感染症等の影響による厳しい経営環境を打破してまいります。

まず、「アクアマリンふくしま」においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数は、令和2年度が339,855人（前年度比63.7%）、令和3年度が2月末現在で、305,774人（前年度同月比98.2%）にとどまっていますが、引き続き、基本理念の「海を通して人と地球の未来を考える」に基づき、展示内容の一層の充実を図るとともに、分かりやすい情報発信に努めながら、「山・川・海の水の循環」や自然環境の保全と持続的な利用などについて考える場を提供してまいります。また、「命の教育」を基本とした新たな体験学習プログラム等の開発を行い、子どもたちが「自然への扉」を開く場を提供してまいります。

こうした取り組みを着実に進めることにより、昨年7月に掲げた3つの運営目標である

- ① 子どもたちの未来を拓く水族館
- ② 唯一無二の水族館
- ③ 地域と共に歩む水族館

の実現を目指してまいります。

具体的には、ウイズコロナが続く中で館内での感染拡大防止対策を徹底するとともに、令和4年4月下旬にオープンする、野生動物と遊具の複合的な展示をとおして、動物の特徴や能力を遊びながら学ぶことができる「えっぐの森～どうぶつごっこ～」をはじめ、アフターコロナに乗り遅れることがないよう各種事業を積極的に展開し、令和4年度は、53万人以上の入館者数の確保を目指してまいります。

次に、「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」においては、同じく新型コロナの影響により、入館者数は、令和2年度が49,856人（前年度比73.1%）、令和3年度が2月末現在で、53,231人（前年度同月比112.5%）にとどまっていますが、引き続き、基本理念である「ふくしまの湖沼群を通して人と地球の未来を考える」に基づき、福島県の水環境保全のシンボルである猪苗代湖や裏磐梯湖沼群を中心とした展示をはじめ、環境保全活動や調査研究活動、環境教育普及活動に関する事業の充実を図ってまいります。

具体的には、猪苗代町との連携をさらに深め、町の新たな補助事業等を活用しながら、地域住民はもとより、裏磐梯など周辺観光地からの誘客をさらに進め、令和4年度は、6万人以上の入館者数の確保を目指してまいります。

【 事 業 内 容 】

I 公益目的事業

1 調査収集事業

(1) 生物収集事業

展示及び研究目的のための生物の採集、購入及び輸送を以下のとおり施行する。

- | | |
|-----------------------|----|
| ① 淡水生物収集 | 通年 |
| ② 沿岸生物収集 | 通年 |
| ③ 深海性生物収集 | 通年 |
| ④ 北方系生物収集（親潮、オホーツク海等） | 通年 |
| ⑤ 南方系生物収集（黒潮、サンゴ礁の海等） | 通年 |
| ⑥ マングローブ生物収集 | 通年 |
| ⑦ 植物収集 | 通年 |
| ⑧ 蛇の目ビーチ生物収集 | 通年 |
| ⑨ アクアマリンえっぐ展示生物収集 | 通年 |
| ⑩ わくわく里山・縄文の里生物収集 | 通年 |

※ 令和4年2月末時点での展示規模は、以下のとおり。

水槽数（小型水槽は除く）

・本館	117槽
・BIOBIOかっぱの里	1槽
・蛇の目ビーチ	1槽
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」	28槽
・水生生物保全センター（金魚館）	8槽
・クウェート・ふくしま友好記念日本庭園	2槽
・わくわく里山縄文の里・金魚館	13槽
合 計	170槽

2 展示企画事業

(1) 飼育生物管理事業

本館収容生物（植物を含む）の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチ、クウェート・ふくしま友好記念日本庭園、わくわく里山・縄文の里の環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっぐの飼育管理を行う。

(2) 展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行う。

- ① 館全体の情報の更新や展示の拡充、展示機器の故障への対応を行う。
- ② 弁財天うなぎプロジェクトコーナーにおいては、阿武隈域内保全活動として県内の希少淡水生物調査、ウナギ生態調査を継続して行い、来館者へ情報を提供する。また、ふくしまレッドリストの生物調査に協力し、県内の希少生物・外来生物データの共有を図る。
- ③ 各種パネルや種名ラベルの更新を行い、来館者へ常に最新の情報を提供する。
- ④ 東京電力福島原子力発電所事故により放出された放射性物質に関する内容の展示を行い、風評被害の払拭に努める。
- ⑤ えっぐの森、縄文の里を体験活動の場として展示を充実させ利活用の促進を図る。

- ⑥ 伝馬船工房での伝馬船製作、炭焼き窯での炭づくりにより、山・川・海のつながりで成り立った古き良き時代の伝統を紹介し、継承していく展示を行う。

3 研究開発事業

(1) 水生生物保全センター（串本分館）管理事業

水生生物保全センター（本館及び串本分館）では、採集及び飼育が困難とされる生物の収集・畜養を行い、新規展示開発に結びつける。

(2) 研究開発交流事業

- ・ 新規展示開発につながる生物収集、生態研究及び環境保全活動の推進に務める。
 - ① 水産資源研究所、福島水産形容研究センター等の調査船に乗船し、東北沖、北海道沖等の生物の収集と生物相の解明。
 - ② ROV、釣り等による深海性生物の収集調査を行い、新規展示生物の開発。
 - ③ 卵の収集と育成により深海魚等の新規生物の収集、展示の試み。
 - ④ 外洋回遊魚類（バショウカジキ、メバチ）の収集、展示。
 - ⑤ 深海性甲殻類（ヒゴロモエビ、ツノナシオキアミ）の入手方法の調査と新規展示。
 - ⑥ オホーツク海南端部に生息するクサウオ類、深海性甲殻類等の生物の繁殖、種の同定等の調査研究。
 - ⑦ 胚発生、ゲノム解析等によるサンマの繁殖生態の解明。
 - ⑧ クラカケアザラシの音声解析。
 - ⑨ ニホンアナグマの臭腺分泌物を用いた行動に関する研究等。
- ・ 学会・研究会等参加事業
 - ① 学会及び各種研究会へ参加し、先進技術の情報収集を行い、当館の展示並びに教育普及活動に反映させる。
 - ② 飼育下で得られてきた知見について必要に応じた追加研究を実施し、然るべき学会等への報告を行う（ゲンゲ科魚類、マダラハナダイ、深海性クサウオ、カエルアンコウ科魚類、ホシマダラハゼ、八重山のこぎりハゼ、ユーラシアカワウソ等）
- ・ 弁財天うなぎプロジェクト
継続して実施してきた弁財天うなぎプロジェクトについて、引き続きシラスウナギ調査、うなぎ類の分布調査を実施する。
- ・ ラブカ研究プロジェクト
東海大学海洋科学博物館ほかと協力し、ラブカ成魚の捕獲、胎仔の人工保育を試みる。併せてROVを用いた生息地調査を実施する。
- ・ 放射性物質調査研究事業
東京電力福島原子力発電所事故により放出された放射性物質に関する調査を、金沢大学、木戸川漁業協同組合他と共同で実施する。風評被害払拭のための重要な事業であることを認識し、環境水族館にふさわしく山川海の汚染の推移を把握し、情報発信する。

4 国際連携交流事業

・ 友好締結園館交流事業

新型コロナウイルス感染症流行下において、友好締結園館（東京都葛西臨海水族園、モントレイ湾水族館、香港オーシャンパーク、パラオ国際サンゴ礁センター、新潟市水族館マリニピア日本海、クウェート国立科学研究所、ナショナル・アクアリウム、中国科学院水生生物博物館、北京海洋館、上海海洋水族館、ロッテワールド水族館、那須ど

うぶつ王国、宇都宮動物園)との情報交換を行い、各園館および各国の状況を把握する。感染終息後、生物及び技術交換等の交流事業のみならず集客の手段としても展示交流を再開する。

また、世界水族館会議での国際ネットワークを活用した情報交換を行い、近年問題となっている海洋環境の保全についての活動を充実させる。

- ・日動水（教育研究会）との連携

5 企画営業事業

(1) イベント等開催事業

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期すとともに、魅力あるイベント開催等により来館者サービスの向上や誘客促進に努める。

集客力と来館者サービス向上のため、季節に応じた多彩なイベントや企画展示を以下のとおり開催する。

① 小名浜国際環境芸術祭

ア 期間：9～11月

イ 概要：芸術の秋にちなんだ展示を行う。

② 季節イベント

ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマス、年末年始、春休み等に合わせてイベントを開催する。

(2) 広報宣伝事業

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、来館者の減により低下した認知を少しでも回復させるため、パブリシティを活用した広報活動と各種媒体による広告宣伝を積極的に展開する。

① パブリシティを活用した広報活動

広告料を必要としない媒体の活用や広報活動を積極的に行う。

ア マスコミ各社に対する情報提供、テレビ・ラジオ等への取材対応・出演

イ 県内外の新聞、旅行誌、タウン誌等への情報提供

ウ 観光施設、公共施設へのチラシの配布、配置

エ 市内小学校児童へのチラシ配布

オ 無料Webサイトへの情報提供

② 広報媒体による広告宣伝

各種広告媒体を精査し、県内外で費用対効果の高い広告宣伝を行う。

ア 県内及び隣接県でのテレビ・ラジオCMの放送

イ 県内及び隣接県での新聞、情報誌等への広告掲載

ウ Web広告やフリーペーパーへの広告掲載等

③ 移動水族館専用車（アクアラバン）を活用した広報宣伝

アクアマリンふくしまの宣伝活動を目的に、多くの集客のある会場・イベントにおいて移動水族館を開催する。

④ 各種観光イベント等への参加

主に首都圏を中心とした県外での観光イベントに参加し、移動水族館やプロモーション、チラシ配布による広報活動を行う。

⑤ ウェブサイト（スマートフォンサイト含む）の充実による広報宣伝

ウェブサイトとSNSを活用し、タイムリーな情報提供を行う。

(3) 観光誘致事業

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、様々なアプローチにより営業・誘

客活動を行う。

① 旅行エージェント営業

アフターコロナの一般団体誘客のため、旅行エージェントへの提案型営業を継続して行う。

② 近隣施設等との連携

アクアマリンパーク3者協議会(いわきら・ら・ミュウ、イオンモールいわき小名浜、アクアマリンふくしま)に、いわき観光まちづくりビューローを加えて連携を強化する。また、アクアマリンパークに誘客できる仕組みづくりを協議し実践を目指す。

③ 磐越道沿線施設連携事業(ばんえつ発見の旅サポート)

いわきと新潟をつなぐ磐越自動車道沿線の文化施設及びNEXCO東日本と連携し、共同割引券の配布やNEXCO東日本フリーパスへの参加を通して、広域からの誘客を推進する。

④ 企業・団体への福利厚生事業

企業等・団体への福利厚生事業として入館前売券の販促を強化する。

⑤ 学校関係団体への営業

県外学校団体の修学旅行等の学校関係の入館者増を目的に、教育委員会や教育関係の旅行会社へ営業を行う。特に、新型コロナウイルス感染症の状況下で入館者数が伸びている栃木県・茨城県及び入館者数が減少している東京都・千葉県・埼玉県など首都圏への営業強化と、新型コロナウイルス感染症の発症拡大前に入館者数が多かった九州方面・関西方面への営業を強化する。(誘客の再構築)

⑥ 館外チケット販売の強化とキャッシュレス・電子マネー導入

館外チケット販売を強化するとともに、取り扱うキャッシュレス・電子マネーの範囲を拡大することで、お客様の利便性の確保、入館の明確化(事前予約)、チケットの販売促進及びチケットカウンターの混雑緩和を図る。

(4) 地域交流事業

地域に根ざした施設づくりを進めるとともに、様々な機会を通して地域との連携を深め、人・モノ・情報の交流を活発にして地域の活性化と魅力的な地域づくりに努める。

① 小名浜まちづくり市民会議への参画

いわき花火大会への協賛など小名浜まちづくり市民会議の事業に積極的にかかわり、小名浜地区の地域活性化に貢献していく。

② 公共施設連携

地元の文化施設と連携し、エリアとしての魅力を高める。

③ 移動水族館専用車(アクアラバン)を活用した地域交流の推進

主に県内の文化施設・イベントの誘客に貢献することを目的に、移動水族館を開催する。

④ いやしの水族館(水槽レンタル)事業

病院や観光施設、官公庁をはじめ様々な施設に有料でクラゲ等の水槽を設置する事業を進め、地域の交流場所に癒しの展示を提供する。

⑤ FIGHT10

福島県と北関東の動物園、水族館が連携することにより生き物好きの回遊を生むとともに、共同事業による情報発信を行う。

6 入館者管理事業

(1) 入館者サービス向上事業

① 地域交流事業新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底

入館時の体温測定、マスク着用や手洗い・アルコール消毒、距離の確保等の呼びかけ、換気や清掃の徹底等に引き続き取り組み、感染拡大防止と来館者の安全・安心の確保に

努める。

② サービスの充実

高齢者から幼い子ども、身体障がい者まで全ての来館者が快適に過ごせるような設備の充実とサービスの向上に努める。高い接客技術を有するスタッフを館内各所に配置して、迅速かつ丁寧に来館者の要望やクレームに対応し、満足度を向上させるためのサービスの充実を図る。

さらに、接客や来館者アンケート等により得た来館者の要望や評価を把握し、サービス向上に反映させる。

③ 館内案内の充実

館内案内リーフレットを配置し、来場者の観覧を支援するとともに、館内プログラムの情報を提供することで、来場者の利便性向上を図る。リーフレットは海外の来場者も利用できるよう、多言語のものを作成して配置する。

④ 年間パスポートの販売促進

リピーター対策として1年間何度も利用できる年間パスポートを販売する。購入者には特典を設け、満足度向上を図り、購入者数を増加させる。

⑤ 通年開館

誰もが年間を通して曜日を問わず来館できるよう年中無休で開館する。

⑥ 催事の開催と開館延長

年間を通して季節ごとに多彩なイベントを開催し、誘客に結びつける。また、新型コロナウイルス感染症が収束傾向にある場合には、お盆、クリスマス等の期間について開館時間を延長してより長く館内で楽しんでいただくとともに、各種催事を実施することによって誘客促進や来館者サービスの充実を図る。

7 企画展開催事業

マリンホールを使用した企画展（特別企画展）の開催を行う。

8 学習交流事業

(1) 解説事業

来館者に展示テーマや展示生物への理解を深めていただくために、ボランティアの協力も得て館内で給餌解説やバックヤードツアーなどの解説活動を実施する。また、「わくわく里山・縄文の里」をはじめ、「BIOBIOかっぱの里」や「蛇の目ビーチ」、新展示「アクアマリンえっぐ〜どうぶつごっこ〜」を活用し、「山、川、海」のつながりの重要性を来館者に伝えるため、多様な自然体験活動を提供することにより、福島県の自然環境の保全に寄与できる人材の育成を図る。このために関係団体やNPO等とも協働してワークショップを定期的に開催する。なお新型コロナウイルス感染症拡大の際は、感染症予防に留意しながら実施するものとする。

(2) 学校教育関連事業

学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。また、学校教育に基づく活動の利用による減免制度の特性を維持する。なお新型コロナウイルス感染症拡大の折、学校教育施設の活動支援にあたっては、感染リスクの高い活動は避け、実施可能な活動も感染症予防対策を十分に講じて実施していく。

① 教員セミナーを実施（8月中に2回開催）する。

② ゲストティーチャーを実施する。

③ 教材等の貸し出しを実施する。

- ④ アクアマリンふくしまの利用案内をするガイダンスや館内の展示を活用した館内学習を実施する。
- ⑤ 職場体験や学芸員実習など、館内での実習を行う。
- ⑥ バスを活用し、県内の小規模校の児童、生徒を送迎して館内で学習をさせる館内学習支援事業を実施する（年度内10回程度）。
- ⑦ 移動水族館専用車（アクアラバン）を運行し、学校や社会教育施設を対象とした移動水族館を開催する。
- ⑧ 教員専用のホームページを作成し、館内学習の内容や学校対象の催しなどの情報提供を行うなどITを活用した学校の利用促進を図る。

(3) 情報提供事業

インターネットや機関誌を利用して、館内活動状況、水生生物及び海などに関する情報を提供する。

- ① インターネットによる情報発信
ホームページのほか、SNSにより随時情報を発信する。
- ② 機関誌（AMF NEWS）の発行
四半期ごと年4回発行する。ホームページにデジタルブックを掲載し、利便性向上を図る。

9 施設管理事業

- (1) 開館22年目を迎え、施設の経年劣化による事故・障害の防止を図るため、「ふくしま海洋科学館の管理に関する基本協定書」に基づき、県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。
また、昇降機設備、電動開閉窓、非常用発電装置等の更新計画について検討実施する。引き続き蛍光管の生産終了に伴う館内照明のLED化を実施し、エントランス及び3階テラスの木床、防鳥ネット、ショップ及び県の減災化計画に基づくレストラン上部吊り天井更新計画について、県と連携しながら検討実施する。
- (2) 省エネルギー対策としては、エネルギーの使用状況を詳細に把握することにより、効率的な熱利用を行う。同時に廃熱の回収や熱ロスと外気温からの影響の低減を目標に、既存設備の改修を計画する。また、電力自由化を踏まえ、他の電力会社との契約について継続して調査検討を行う。
- (3) 施設の老朽化に伴う事故発生を防ぐため、KYT活動の徹底、館内における逆洗等共通作業の標準手順書の作成、及び各種安全衛生教育に努める。

(4) 主要維持管理施設

〇いわき市小名浜字辰巳町地内

① ふくしま海洋科学館

本館等敷地面積	56,189.52㎡
本館延床面積	12,935.11㎡
水生生物保全センター延床面積	925.09㎡
子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70㎡
屋外便所延床面積	106.18㎡
温室	52.54㎡
わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積	1,509.56㎡
屋外屋根通路棟	83.11㎡
伝馬船工房	39.74㎡
炭焼き小屋「たろうがま」	34.80㎡

② 駐車場関係

施設外駐車場面積	12,093.81㎡
----------	------------

○いわき市小名浜下神白字松下地内

①海水取水・送水施設

ろ過送水棟敷地面積	665.54㎡
ろ過送水棟延床面積	180.04㎡
取水ポンプ棟敷地面積	238.29㎡
取水ポンプ棟延床面積	84.43㎡
取水管（管径 350mm）	182.20m
揚水管（管径 300/350mm）	146.00m
送水管（管径 250mm）	2,885.64m

○和歌山県串本町

①水生生物保全センター分館

延床面積	186.00㎡
------	---------

(5) 来館者用駐車場の確保

来館者に対応できる駐車場を確保する。

- | | |
|---------|----------------------|
| ① 専用駐車場 | 282台（うち身障者用5台、バス15台） |
| ② 公共駐車場 | 1,429台（うち身障者用17台） |
| * 駐車場合計 | 1,711台 |

10 カワセミ水族館事業

「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」は、福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開する。

また、福島県内の淡水魚、は虫類、両生類、鳥類等の保全と調査研究を行い、情報発信に努める。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター	736.00㎡
猪苗代町緑の村釣堀、鑑賞池	10,000.00㎡
猪苗代町淡水魚館	605.10㎡

(2) 展示事業

- ① 猪苗代湖及び周辺自然環境情報のパネル展示
 - ② 淡水生物の分布についての水槽展示及びパネル展示
 - ③ 外来水生生物の飼育展示及びパネル展示
 - ④ 希少淡水生物繁殖保全水槽
 - ⑤ ユーラシアカワウソの飼育展示
 - ⑥ 水辺に生息する鳥類の飼育展示
 - ⑦ 福島県内に生息する哺乳類の展示
 - ⑧ 企画展示
 - ⑨ 展示水槽数
- | | |
|---------|--------|
| 淡水生物水槽 | 140槽 |
| 哺乳類水槽 | 5槽 |
| キンギョ水槽 | 16槽 |
| カワウソ展示室 | 1室 |
| 鳥類展示室 | 8室 |
| 合計 | 161槽9室 |

(3) 体験プログラム

- ① 釣り体験の実施
- ② 参加体験型展示と映像を放映
- ③ 館内オリエンテーリングの実施
- ④ 館内ワークショップの実施
- ⑤ 木育キッズコーナーの充実

(4) 情報発信

各種展示を通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水生物の繁殖・保全を来館者に対して情報発信する。

(5) ボランティア活動

- ① 館内解説補助
- ② 釣り堀運営支援
- ③ 来館者の参加体験支援

Ⅱ 公益海洋文化学習振興事業

1 海洋文化推進事業

(1) シーラカンス調査事業

シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとして堅持しつつ、新型コロナウイルス感染症流行終息後速やかにインドネシア諸島周辺、アフリカにおいてシーラカンス調査研究が再開できるよう準備を整える。現地研究機関や大学と相互協力し、シーラカンス研究グループを組織し、本研究が、サンゴ礁の域内保全活動の一環であるとの認識を共有する。

インドネシア、アフリカ調査で得られた結果を、館内の展示を通して来館者に知らせる。また、シーラカンス研究活動において共同研究している大学等の研究機関と共に、学術的な成果を館内及び館外で報告する。

2 スクール開催事業

施設の基本理念に基づき、運営目標を達成するために多様な普及啓発活動を実施する。ウイズコロナを前提とした新たな開催方法や運営形態を模索し、実施する。

(1) スクール開催

事前募集をした参加者を対象に命の教育をテーマとした多様なプログラムを提供する。子どものみ、大人のみ、家族等対象の異なったプログラムを、月2回、年24回程度開催する。状況に応じてオンラインの活用や教材提供等の手法も用いて実施する。

例) 宿泊スクール、ナイトツアー、工作体験、陶芸教室、飼育体験、漁業体験他
オンライン講座

(2) 釣り、調理体験

アクアマリンえっぐの釣り場でのアジやギンザケの釣り体験、調理体験スペースや蛇の目食堂での調理・食事体験を実施し、子どもたちに命を頂戴する意味を、五感をとおして考える機会を提供する。

(3) うおのぞき体験活動

子どもたちに水産物の利用や水産加工の伝統を継承するため、アクアマリンえっぐで子ども漁業博物館うおのぞきの体験活動として以下のプログラムを実施する。また、新たな体験活動を実施する。

・炭火焼体験、かつお節削り体験、エサやり体験、缶詰づくり体験等

(4) えっぐワークショップ

アクアマリンえっぐ内のワークショップコーナーにおいて、当館のボランティアの指導による有料の工作を開催する。

(5) 他団体との連携

全国のNPOやボランティアと協働してワークショップや移動水族館等を行い、いわき市内をはじめ県内外の被災地の子どもを元気づけるために多様な支援活動を実施する。

3 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進する。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供する。なお、これらの活動は感染症予防に十分留意しながら行なうこととする。

- ① バックヤードツアーの実施
 - ② 本館ボランティア案内所での情報提供
 - ③ アクアマリンえっぐにおける工作や釣りの指導
 - ④ うおのぞきにおける炭火焼等各種体験の指導
 - ⑤ アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションを中心とした展示解説や体験活動の支援
 - ⑥ 各所におけるスポットガイドの実施
 - ⑦ 企画支援（イベント準備等の支援）
 - ⑧ 研修の実施
接遇研修、Q & A 研修、バックヤード研修、他館視察研修等ボランティア各個人の経験に合わせた研修を実施する
- ・ チューターの配置
各分野で専門的な知識や経験を持った方を教育指導員（チューター）として登録し、展示の充実や来館者の観覧支援に当たる。

4 移動水族館事業

普段当館に足を運ぶことができない人にも海の生物に親しむ機会を提供し、自然の事象への興味、関心を高めてもらうことを目的に、移動水族館を開催する。併せて、アクアマリンふくしまの宣伝を行い、誘客につなげるとともに、開催地における地域振興に貢献する。

Ⅲ 収益事業

ふくしま海洋科学館における収益拡充のため、ミュージアムショップ及びレストランの機能を充実させ、サービス向上に努めるとともに、健全経営に資する事業として来館者単価の向上を図る。

1 ミュージアムショップの運営

売上げ状況の分析による販売商品の定期的な見直しを行うほか、試作・検証を十分に行いながらオリジナル商品の開発に積極的に取り組むと同時に、店舗ごとに商品構成の差別化を図り、来館者の購買意欲を高め、売り上げの向上につなげる。

また、常設展の新規展示や企画展と連動した商品を販売すると共に、店内のディスプレイや季節演出等によりミュージアムショップの魅力を高め、売り上げの増加を図る。

2 レストランの運営

レストラン「アクアクロス」及び露店「The Roten Café Breeze」は、新規メニューの開発や料金設定の見直しを行い、来館者の利用促進と収益の向上を図る。

また、館内2階潮目の大水槽前では、話題性の高い寿司処「潮目の海 HAPPY OCEANS」を営業して収益増を図りながら、漁業資源の利用についての問題提起を行う。

3 イブニングイベント事業

「肴を旨く食べる会」

財団が推進するハッピーオーシャンズの理念に基づき、会食等を通してその食材である魚介類等に関する認識を深め、魚食の啓発を行うとともに、会員相互の情報交換と親睦を図ることを目的として開催する。